
議 事 録 平成22年度 第1回 金沢市少子化対策推進会議

日 時：平成22年11月12日（金） 午前10時～11時30分

場 所：金沢市役所 7F 金沢市議会全員協議会室

出席者：委 員 16名

事務局 副市長、福祉健康局長、健康推進部長、関係課長21名

こども福祉課長、こども福祉課担当課長（子育て夢プラン推進担当）

提出資料：次第、金沢市少子化対策推進会議設置要綱、委員名簿

「かなざわ子育て夢プラン2005」実施状況【資料番号1】

「かなざわ子育て夢プラン2005」指標設定事業一覧【資料番号2】

「かなざわ子育て夢プラン2010」関連新規施策実施状況【資料番号3】

「かなざわ子育て夢プラン2010」概要版

「金沢子育てお役立ちBOOKのびのびビーノ」、「同わくわくウーモ」

内 容：1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 事務局説明

・「かなざわ子育て夢プラン2005」の実施状況と評価について

・「かなざわ子育て夢プラン2010」の進捗状況について

5 審議

6 閉会

質 問 意 見 等

事務局 (資料番号1～3について説明)

委員 資料番号1の終了とある事業については、新たに再スタートするのか、終了か

事務局 事業による。期限を切った事業、目的を達した事業、新たに見直した事業がある。

委員 基本方針4のワークライフバランスに関し、お父さん方の子育て参加が必要。具体的な取組として、資料番号1の番号209「次世代育成支援事業所認証フォーラム」の結果はどうであったか。

事務局 子ども広場、イベント、保育所の送迎、健診等の各場面で、父親の子育て参加が増えていると実感している。12/2にワークライフバランスのイベントを開催する。父親の子育て参加については、子育てに関心のある企業に声かけをしている。

委員 ウーモ、ビーノは2年後にまた新しくなるのか。
また、ワークライフバランスに関連して、父親の子育ても大事なんだよというメッセージや、父親がいっしょに読めるような内容はあるか。

事務局 印刷物として、ビーノは2年を目処に、ウーモは毎年改訂する。どうしても古くなるため、ホームページにリアルタイムに情報を載せている。
ウーモには、これから親になる人へのメッセージを入れている。ご意見を参考に、父親へのメッセージを発信したい。

委員 認知度がH16年度で54%であった。配布方法の変更により100%に近づいていくのか

事務局 Face to Faceで、足りない情報は言葉を足してお渡ししている。また、新生児だけでなく、転入者に対しては窓口でお渡しする。これにより100%を目指したい。

委員 資料番号2の事業番号32の学校保健センターの健康相談事業について、目標が1,000件とあるが、毎年300件ぐらいである。どういうことか。
また、資料番号1のP17の教育プラザ富樫での専門相談と総合健康センターで医師会が行っている健康相談がある。紹介の仕方や内容について、その関係はあるのか。

事務局 策定時は肥満度20%以上の児童を対象に個別指導していたが、H18年度からは肥満度30%以上とし、集団指導に切り替えたもので、人数としては増加している。
教育プラザ富樫の専門相談は、保護者、教員、保育士等から個人で申込みする原則単発の相談、学校保健センターの健康相談事業は委託事業で、学校経由で継続的な相談である。今後それぞれの役割を明確にするとともに、お互いに連携を図りながら充実していきたい。

委員 2010の施策の展開という点で聞く。私のような年代が地域活動をしたいと思っても、どう関わっていいか見えにくい。色んな施設があるということはわかるが、地域の人材ということで、新規に参加しやすい環境づくり、きっかけがあるといい。テレビで「ライフシェ

アリング」といって、お年寄り家庭とひとり親家庭とが共同生活をする地域の取組みを紹介しておりいいなと思った。金沢市でも検討してほしい。

事務局 貴重なご意見をいただいた。プランの中で、地域のボランティアさんの参加については少し弱いかもしれない。実際に参加したいというとき、どういう手順を踏めばいいのか、アプローチの仕方を今後示していきたい。既に行っている取組の中でも、例えばファミリーサポートセンターについて、わかりやすくアピールしたい。子育てサロンでは、地域の人に本当によく助けていただいている。地域サロンやかなざわ子育て夢ステーションでは異世代交流を行っている。わかりやすく、参加しやすい仕組みを制度として立ち上げていきたい。

委員 今の指摘の関連で、公民館の子育てサロンの手伝いとして、子どもの見守り等をしている。今まで以上にいろんな人が入るようにできるといい。

お出かけクーポンは、祖父母も一緒に使えるのがありがたい。若い人と祖父母の子育ての違いというものがあると思うが、若い人のいいところ、祖父母のいいところがあり、祖父母が子育てに参加するに当たって、例えばおんぶが流行っているなど見直されていいところもあり、そういう話しができたらいと思う。

事務局 子育てに対する意識の向上として、今後子育てファミリーカレッジを企画していく。これまでは子育てママさんカレッジで、お母さんを応援するような事業だった。これをファミリーということで、お父さん、おじいちゃんおばあちゃんも対象に、一コマとして今時の子育てについてメニューに入れたいと考えている。また、講師をお願いすることもあるかと思うので宜しく願いたい。

委員 資料番号1の198産休・育休明け予約サービスの検討について、現状では実施困難とあるが、今後進めないのか。

事務局 現在非常に多くの、12,000人くらいの子が保育所に入所している。産休明けの入所希望が近年増えている。予約には人の確保、スペースの確保が伴うが、近々に明日から働かなくてはいけないという人を優先しなければいけないという事情もあり、現状では難しい。職場復帰がしやすいような仕組みづくりの重要性は認識しており、予約システム以外のところで考える必要がある。

委員 来年度の申込み受付が終了した。地域により違うが、実際に定員の何割増しかの申込みが来ている。保育所、幼稚園をこども園にしていくという、大きな制度改革の話があり、戦々恐々としている。そうした議論の中で、金沢市では、調整の中で保護者の方に理解をいただきたい。

委員 資料番号3のP3のワークライフバランスの取組について、国は後ろ向きのようなのだが、市は12月にセミナーを開催予定とのことで、今後はどんな取組をしていくか。また、緊急サポートネットワークが今年度で終了するが、ファミリーサポートセンターにおいて病後児の受入を今後どのようにしていくか。

事務局 プラン策定前の大規模な市民アンケートにもあったが、ワークライフバランスとい

っても、仕事と家庭の両立させるというのもワークライフバランスであるし、方や一定期間はきっちりと子育てをして、子育てが終わったら仕事に復帰するというのもワークライフバランスではないかということで、両輪になりながら施策をすすめていく。

子育てにやさしい企業認証のH24年度末の目標は、60社であるが、H21年度は5社、H22年度は2社の申請と低迷している。国県市において、企業の一般事業主行動計画策定をもっと押し進めていかなければいけない。セミナーは12/2にもものづくり会館において、企業の雇用担当者を中心に関心を高めていきたいということで、講談師を招いて講演していただくなど気軽に入るような取組からはじめたい。

緊急サポートネットワークの終了についてはファミリーサポートセンターへの移行をスムーズに行っている。病後児については、提供会員研修を実施し受入できるよう話を進めている。病児については、7か所で対応しており、金沢市では充実している。年間5000人を超える利用がある。本来なら、本当に病気のときは親が傍にいてあげられるのが一番いい社会だと思うが、やむなき事情もあるため、こうした制度も利用していただけるよう整えている。

委員 ファミリーサポートセンターの会員数は

事務局 9月末時点で、提供会員582人、依頼会員4,536人、うち両方会員235人

会長 2010はスタートしたばかりだが、出生届など窓口での市民の声などあれば紹介して欲しい。

事務局 まだ7月から事業をはじめたばかりで、声はまだ届かないが、窓口では概ね好評である。ギフトでは、金沢らしいギフトが健闘している。お出かけクーポンは祖父母でも使えるように企画した。家族で1日ふらっとバスで複数施設をまわったのかなあという利用も見られ、うれしくなる。

委員 子どもの安全に関連して、車のスピードを抑止しようということで、緑と花の課からプランターの提供があった。しかし、道路管理課からはNOで、プランターは歩道に置いているため、抑止にはなっていない。縦割りである。

事務局 よく調整するように申し伝える。

委員 制度改正について、現場では幼稚園保育所含め不安に感じているが、子育て夢プランについては5年間、しっかりと頑張りたい。保育所としても12,000人の子を日々預かっており、配慮・理解をお願いしたい。

会長 各委員の貴重な意見・感想を活かして、充実したプランになるように願う。